

1 研究主題及び研究仮説について

(1) 研究主題

主体的な学びを拓く4つの資質・能力の育成
～生徒理解による学習指導と生徒指導の一体的な推進を通して～

(2) 主題設定の理由

本中学校区では、令和3年度から令和5年度までの3年間広島県教育委員会より、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を進めてきた。中学校区で育てたい資質・能力をそろえ、児童生徒の発達の段階に応じたルーブリックを設定し、各教科における授業改善の取組を着実に重ねてきた。

＜育てたい資質・能力（※4つの基礎的・汎用的能力を児童生徒に分かる言葉に整理した）＞

- 見つめる力…自分が好きなこと、得意なことなど、今後の自分自身の可能性を含めて肯定的に理解する力【自己理解・自己管理能力】
- 関わる力…他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝え、他者と協力・協働する力【人間関係形成・社会形成能力】
- やり抜く力…様々な課題を見つけ、適切な計画を立てて実行し、その課題を解決することができる力【課題対応能力】
- 見通す力…自分の夢や目標、やりたいことなどについて、自ら考え、選択し、自分の意志で決めることができる力【キャリアプランニング能力】

※基礎的・汎用的能力：様々な職業をやり遂げていくうえで必要となる基礎的な能力のこと。

令和5年度に研究指定を終えたが、令和6・7年度もキャリア教育の視点を取り入れた教育活動を継続したことから、「めざす自分」シートを通して、自分自身を見つめ、コントロールしようとする記述が多く見られた。また、「めざす自分」シートをはじめとした事前事後の振り返りを丁寧に行うことで、目標を立て、達成するための見通しをもって取り組むことができるようになった。

今年度の主題は、昨年度まで取り組んできた「見つめる力」と「見通す力」の2つの資質・能力に「やり抜く力」と「関わる力」を加えて、4つの資質・能力を相互的に育成していくことを目標としている。「やり抜く力」を加えた理由は、「めざす自分」シートにおいて学習に対する課題などを記述する生徒が多くを占めていたからである。現在の自分自身に対する課題を見つけ、適切に対処しようとする記述が多く見られ、これは課題対応力、すなわち「やり抜く力」を伸ばそうとしているといえる。また、生徒に実施した学びのアンケートの中で「生徒同士で教え合ったり、話し合いをしたりしながら学ぶ授業があっていると思いますか？」の問いに対して肯定的な回答が84.1%であった。さらに、「自分の力を付けていくために、どんな授業が良いと思いますか？」の問いで、回答が最も多かったのは「対話やコミュニケーション能力を高める授業」であり、生徒自身が「関わる力」の必要性を感じていることが明らかになった。このことから「関わる力」についても加えることとした。

昨年度「一人一人の能力に合わせた学習指導」が実現できるように副題を設定し、研究を進めてきた。その中で、各教員で授業改善について考え、生徒自ら解く問題や学び方を選べるようにしたり、ICTを用いた他者参照をしたりすることができた。また、授業の中で生徒自らが学習方法や学習内容を選択することが増え、そのことから主体性が生まれ、学習に意欲をもって取り組めるようになってきている。

昨年度の取組を振り返ると、課題として、基礎学力を定着させていくことが挙げられる。昨年度の学

力指標である1・2年生の江田島市学力調査の結果と3学年の実力試験等の結果を見ると、どの学年も目標を十分に達成することができなかった。このことから、昨年度に引き続き、基礎学力の定着を図っていくことが大切であると考え。特に、5教科の平均正答率が40%未満の生徒に注目すると、1年生が43.7%、2年生が53.7%、3年生が60.5%であった。これは授業についていけない、学習を進める上でつまずきのある生徒の割合が高いことを示しており、生徒自らがつまずきを解消しながら前に進んでいけるような授業改善が必要である。そのための核となるのが生徒理解である。生徒が学習につまずく理由は一つとは限らず、個別に違いがある。学習面や生活面など多面的・多角的に理解することで、より良い授業改善につなげることができると考える。また、生徒一人一人が学級内で安全安心な風土の中で学べるようにするためには、生徒理解を根底とした生徒指導が不可欠である。そのため今年度は、生徒理解を十分にした上で、昨年度同様、一人一人の能力に合わせた学習指導に取り組む。学習指導と生徒指導を一体的に進めることで、生徒の主体性を一層高めることができると考える。

以上のことから、今年度は「主体的な学びを拓く4つの資質・能力の育成」を研究主題とし、副題を「～生徒理解による学習指導と生徒指導の一体的な推進を通して～」と設定した。学習指導と生徒指導を一体的に推進するために、生徒一人一人にどんな側面があるのかを理解する方法や、つまずきの見取り方、効果的な支援の在り方についても具体的に研究していきたい。

(3) 研究仮説

一人一人の生徒を学習面や生活面などの多角・多面的な視点で深く理解し、学習のつまずきに応じた学習活動を展開することで、生徒が必要な4つの資質・能力を身に付け、主体性をもって学習していただく。

2 研究内容

	各教科
Plan 計画	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の年間指導計画の中に特に育成したい資質・能力を記載する。 学習指導案の様式の中に、育成する資質・能力とその手立てを記載する。加えて、今までの生徒の学習のつまずきとそれに対する手立て・支援の在り方を記載する。
Do 実践	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習のつまずきとその手立て・支援を意識した授業改善を行う。 互いに授業を参観したり、校内研修で報告したりすることで実践交流を図る。 研究主題に係わって外部講師を招聘し、助言・指導を受けながら交流し、考えを深める。 研究授業前に校内研修を行い、生徒のつまずきの見立てと手立て・支援の在り方について考えを深める。 研究授業では次の3つの視点で協議する。 <ol style="list-style-type: none"> ①教科で身に付けさせるべき力が付いたか ②育成したい資質・能力を身に付けさせるための手立ては適切だったか ③生徒のつまずきに対する手立てによって、生徒の学びは深まったか
Check 評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査、広島県児童生徒学習意識等調査、アセスメント、生徒アンケート、江田島市標準学力調査、実力試験等
Action 取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 2月の校内研修で、様々な結果をもとに評価・分析を行い、今後の取組の方向性や改善策を検討する。

総合的な学習の時間			
Plan 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間を通しての「めざす自分」シートを活用した見取り ・各活動の振り返りを活用した4つの資質・能力の育成 		
Do 実践	○1年生 <ul style="list-style-type: none"> ・将来の幸せな自分へのイメージマップづくり ・インタビュー体験 ・キャンパス見学 ・上級学校調べ 	○2年生 <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問 ・職場体験活動 (CSW) ・修学旅行 ・立志の誓い 	○3年生 <ul style="list-style-type: none"> ・企業面接体験 ・民泊に宿泊する修学旅行生へ地域の魅力発信 ・自己表現の作成
Check 評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「めざす自分」シート、各活動の振り返り等のポートフォリオ 		
Action 取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の校内研修で、様々な結果をもとに評価・分析を行い、今後の取組の方向性や改善策を検討する。 		

授業外では、「フォーサイト」を用いて自己管理能力、課題対応力の育成を目指していく。自分の行動を振り返ったり、必要なことをメモしたりするなど、自らの学びを調整し、管理できるように指導する。併せて、1週間の計画を立て、それを実行していく習慣をつけることで、自分の取り組むべきことを可視化し、計画を立てて取り組む。その中で自己調整しながら実現できる力を身に付けられるようにしていく。

(1) 検証の指標

項 目	具体的な取組の内容			
	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標	〈見つめる力〉 自分が好きなこと、得意なことなど、今後の自分自身の可能性を含めて肯定的に理解している生徒の割合（自己理解能力、自己管理能力）	記述が具体的になる、新しい自分を見つけることができた生徒80%以上	学期末	「めざす自分」シートの記述
	〈見通す力〉 自分の個性や興味・関心のあることに基づいて、キャリア目標（中学校卒業後の進路やどんな大人になりたいか）を考えている生徒の割合（キャリアプランニング能力）	記述が具体的になる、自己修正、調整をしようとしている生徒80%以上		
	〈関わる力〉 目標達成に向けて、自他の考えを尊重しながら他者と協力・協働できる生徒の割合（人間関係形成・社会形成能力）	アセスメントの〈関わる力〉に関する項目のいずれかが改善された生徒80%以上	学期末	アセスメント
	〈やり抜く力〉 自らの課題を見つけ、適切な計画を立てて実行し、その課題を解決することができる生徒の割合（課題対応能力）	自らの課題を記述し、改善に向けて計画を立て、改善された生徒80%以上	学期末	生徒アンケート
学力指標	【1・2年生】 ・江田島市標準学力調査(12月実施)における各教科の点数 ・江田島市標準学力調査における答率40%未満の生徒の割合	【1・2年生】 ・目標値以上の学年・教科が3つ以上 ・令和7年度江田島市標準学力調査との経年変化に注目したとき、正答率40%未満の生徒の割合が10%以上減少	【1・2年生】 2月	【1・2年生】 江田島市標準学力調査
	【3年生】 ・第1回実力試験と比較し、第3回実力試験(11月実施)までの点数が上がった生徒の割合 ・第1回実力試験で正答率40%未満の生徒の中で、第3回実力試験での点数が上がった生徒の割合	【3年生】 ・点数が上がった生徒80%以上 ・点数が上がった生徒70%以上	【3年生】 12月	【3年生】 実力試験

(2) 校内研修計画

	研究推進	全体研修会	市教科研究・その他
4月	・研究推進計画の立案	第1回全体研修会 ・研究推進について ・「フォーサイト」について ・研究授業の日程の決定 第2回全体研修会 ・生徒のアセスメントについて ・生徒のつまずきの見立て、手立て・支援の作成 ・「めざす自分」シートについて	・全国学力・学習状況調査(4月21、23、30日)
5月		第3回全体研修会 ・研究授業①に向けて情報共有	
6月	・夏季休業中研修計画の立案		
7月	・1学期の取組反省 ・2学期に向けて	第4回全体研修会 ・研究授業①【3年1組社会】 第5回全体研修会 ・1学期の実践について交流	・中堅教諭等資質向上研修、江田島市中学校教育研究会を兼ねる ・外部講師の招聘
8月	・全国学力・学習状況調査の分析	第6回全体研修会 ・全国学力・学習状況調査の分析 ・研究授業②に向けて情報共有	
9月			
10月		第7回全体研修会 ・研究授業②【2年1組保健体育】 第8回全体研修会 ・研究授業③に向けて情報共有	・中堅教諭等資質向上研修、江田島市中学校教育研究会を兼ねる ・外部講師の招聘
11月	・2学期の取組反省 ・3学期に向けて	第9回全体研修会 ・2学期の実践について交流	
12月	・3年生実力試験の分析	第10回全体研修会 ・研究授業③【1年1組英語】	・中堅教諭等資質向上研修、江田島市中学校教育研究会を兼ねる ・外部講師の招聘 ・江田島市標準学力調査(5教科、1・2年生)
1月	・江田島市標準学力調査の分析		
2月	・今年度の取組の成果と課題	第11回全体研修会 ・研究報告書について交流	
3月	・来年度の方向性		

※江田島市中学校教育研究会の研究授業については適宜実施する。